【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】令和5年6月14日(2023.6.14)

【公開番号】特開2022-49443(P2022-49443A)
【公開日】令和4年3月29日(2022.3.29)
【年通号数】公開公報(特許)2022-055
【出願番号】特願2020-155661(P2020-155661)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｆ 15/02(2006.01)
Ｇ０６Ｆ 3/02(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｆ 15/02 ３６０Ｚ
Ｇ０６Ｆ 3/02 ５３０

【手続補正書】
【提出日】令和5年6月6日(2023.6.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
本発明に係る第１の態様の電子機器は、計算式中の変数に対応させてユーザにより入力された数値が、前記変数に対応付けて予め設定されている範囲を外れている場合に、当該数値を補正する補正処理部と、前記補正処理部で補正した数値を用いて前記計算式による計算を実行する計算処理部と、を備えることを特徴とする。
また、本発明に係る第２の態様の電子機器は、計算式中の変数に対応させてユーザにより入力された数値が、前記変数に対応付けて予め設定されている範囲を外れている場合に、前記入力された数値の代わりとなる代替数値候補を提示する提示手段を備え、前記提示手段は、前記入力された数値が前記範囲を外れている方向に対応付けて予め設定されている補正用計算式で前記入力された数値を補正することにより得られた数値を前記代替数値候補として提示する、ことを特徴とする。
また、本発明に係る第１の態様の入力制御方法は、電子機器が実行する入力制御方法であって、計算式中の変数に対応させてユーザにより入力された数値が、前記変数に対応付けて予め設定されている範囲を外れている場合に、当該数値を補正する補正処理工程と、前記補正処理工程で補正した数値を用いて前記計算式による計算を実行する計算処理工程と、を有することを特徴とする。
また、本発明に係る第２の態様の入力制御方法は、電子機器が実行する入力制御方法であって、計算式中の変数に対応させてユーザにより入力された数値が、前記変数に対応付けて予め設定されている範囲を外れている場合に、前記入力された数値の代わりとなる代替数値候補を提示する提示工程を有し、前記提示工程は、前記入力された数値が前記範囲を外れている方向に対応付けて予め設定されている補正用計算式で前記入力された数値を補正することにより得られた数値を前記代替数値候補として提示する、ことを特徴とする。
また、本発明に係る第１の態様のプログラムは、コンピュータを、計算式中の変数に対応させてユーザにより入力された数値が、前記変数に対応付けて予め設定されている範囲を外れている場合に、当該数値を補正する補正処理手段、前記補正処理手段で補正した数値を用いて前記計算式による計算を実行する計算処理手段、として機能させることを特徴とする。
また、本発明に係る第２の態様のプログラムは、コンピュータを、計算式中の変数に対応

させてユーザにより入力された数値が、前記変数に対応付けて予め設定されている範囲を外れている場合に、前記入力された数値の代わりとなる代替数値候補を提示する提示手段として機能させ、前記提示手段は、前記入力された数値が前記範囲を外れている方向に対応付けて予め設定されている補正用計算式で前記入力された数値を補正することにより得られた数値を前記代替数値候補として提示する、ことを特徴とする。

【手続補正２】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
計算式中の変数に対応させてユーザにより入力された数値が、前記変数に対応付けて予め設定されている範囲を外れている場合に、当該数値を補正する補正処理部と、
前記補正処理部で補正した数値を用いて前記計算式による計算を実行する計算処理部と、
を備えることを特徴とする電子機器。
【請求項２】
計算式中の変数に対応させてユーザにより入力された数値が、前記変数に対応付けて予め設定されている範囲を外れている場合に、前記入力された数値の代わりとなる代替数値候補を提示する提示手段を備え、
前記提示手段は、前記入力された数値が前記範囲を外れている方向に対応付けて予め設定されている補正用計算式で前記入力された数値を補正することにより得られた数値を前記代替数値候補として提示する、
ことを特徴とする電子機器。
【請求項３】
前記提示手段により提示された代替数値候補がユーザにより肯定された場合には前記代替数値候補を用いて前記計算式により計算を実行し、前記提示手段により提示された代替数値候補がユーザにより否定された場合には前記代替数値候補及び前記ユーザにより入力された数値をクリアする制御部を備える、
ことを特徴とする請求項２に記載の電子機器。
【請求項４】
前記変数に対応付けて予め設定されている範囲は、前記計算式中の他の変数に対応させてユーザにより入力された数値によって可変可能に構成されている、
ことを特徴とする請求項１から３の何れかに記載の電子機器。
【請求項５】
電子機器が実行する入力制御方法であって、
計算式中の変数に対応させてユーザにより入力された数値が、前記変数に対応付けて予め設定されている範囲を外れている場合に、当該数値を補正する補正処理工程と、
前記補正処理工程で補正した数値を用いて前記計算式による計算を実行する計算処理工程と、
を有することを特徴とする入力制御方法。
【請求項６】
電子機器が実行する入力制御方法であって、
計算式中の変数に対応させてユーザにより入力された数値が、前記変数に対応付けて予め設定されている範囲を外れている場合に、前記入力された数値の代わりとなる代替数値候補を提示する提示工程を有し、
前記提示工程は、前記入力された数値が前記範囲を外れている方向に対応付けて予め設定されている補正用計算式で前記入力された数値を補正することにより得られた数値を前記代替数値候補として提示する、

ことを特徴とする入力制御方法。
【請求項７】
コンピュータを、
計算式中の変数に対応させてユーザにより入力された数値が、前記変数に対応付けて予め設定されている範囲を外れている場合に、当該数値を補正する補正処理手段、
前記補正処理手段で補正した数値を用いて前記計算式による計算を実行する計算処理手段、
として機能させることを特徴とするプログラム。
【請求項８】
コンピュータを、
計算式中の変数に対応させてユーザにより入力された数値が、前記変数に対応付けて予め設定されている範囲を外れている場合に、前記入力された数値の代わりとなる代替数値候補を提示する提示手段として機能させ、
前記提示手段は、前記入力された数値が前記範囲を外れている方向に対応付けて予め設定されている補正用計算式で前記入力された数値を補正することにより得られた数値を前記代替数値候補として提示する、
ことを特徴とするプログラム。
【手続補正３】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図３
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図３】

	キー操作	表示部			備考
		状態表示部	メイン表示部	サブ表示部	
(1)	[AC][入力・次](長押し)	(表示無し)	(表示無し)	(表示無し)	[入力・次]キーの長押しで設定モードに入る
(2)		設定 体重 上限?	80.	Kg	基準値の体重(例えば平均値等)を初期表示
(3)	99.5	設定 体重 上限?	99.5	Kg	
(4)	[入力・次]	設定 体重 下限?	50.	Kg	[入力・次]キーで決定して次の設定項目へ
(5)	35	設定 体重 下限?	35.	Kg	
(6)	[入力・次]	設定 身長 上限?	175	cm	
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	
(7)	[入力・次]	設定 完了。 [AC]を押してください	End	(表示無し)	